

徳島県神山町「おうち診療所神山」が2026年度グッドデザイン賞 ベスト100選出・グッドフォーカス賞（地域社会デザイン）を受賞

元JAの建物を活かし、医療と日常が重なる「人を見て、病気も診る」診療所のあり方を評価



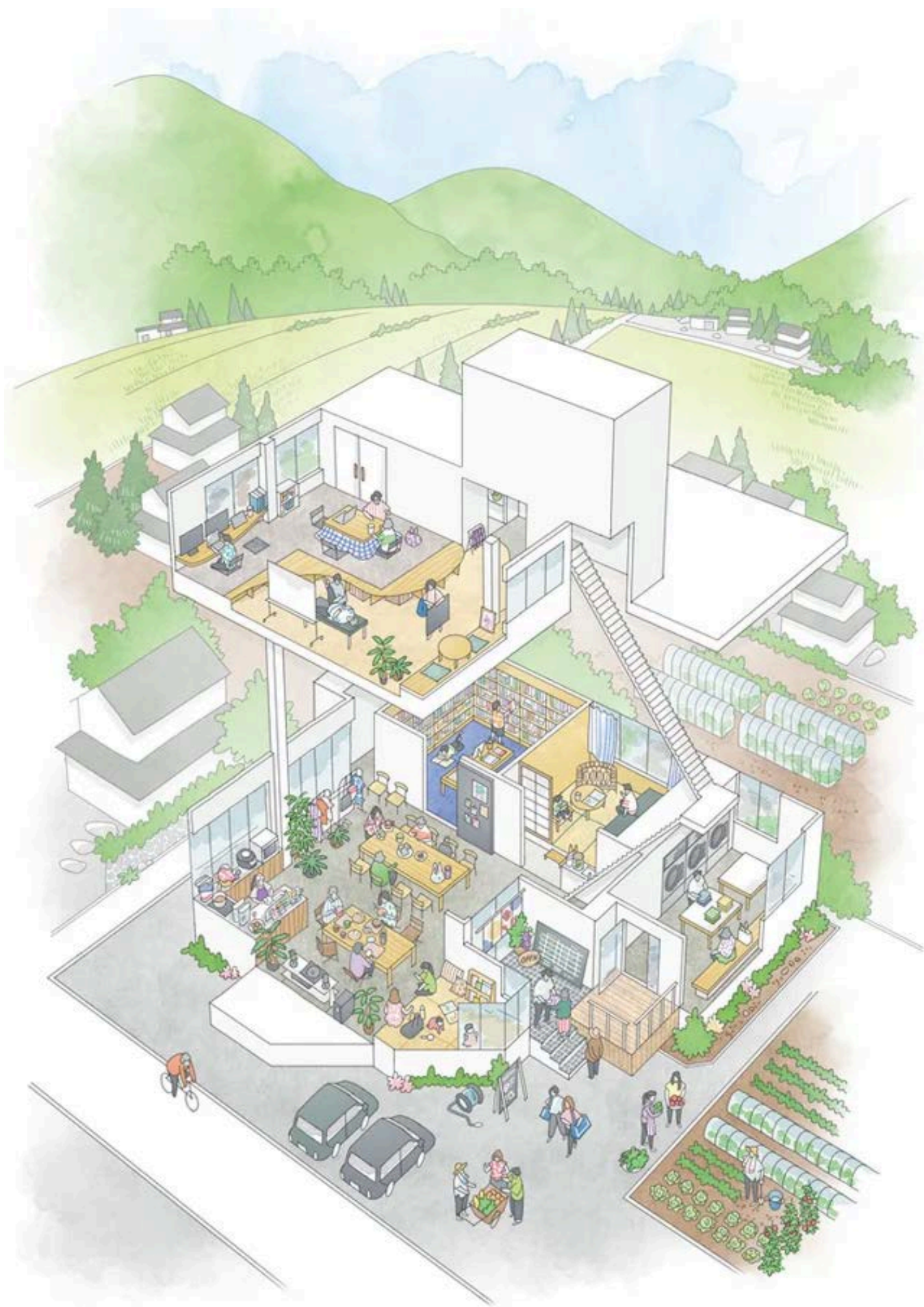
医療法人平成博愛会（平成医療福祉グループ）が運営する「おうち診療所神山」（徳島県名西郡神山町）は、2026年度グッドデザイン賞において、「ケアを地域に開く集会所・診療所〔おうち診療所神山〕」としてグッドデザイン賞を受賞し、「グッドデザイン・ベスト100」に選出されるとともに、特別賞である「グッドフォーカス賞（地域社会デザイン）」を受賞しました。

おうち診療所神山は、訪問診療・看護・リハビリテーションを主軸に、外来も担う地域の医療拠点として、2024年8月に開設しました。町の人々に親しまれてきた元JAの建物を活用し、誰もが立ち寄れる集会所を中心に、診療所、図書室、ランドリー、カフェ、食堂、レンタルスペースなどを同列に配置しています。

多くの医療機関は、病気を診るために最適化された環境です。そこでは、病気を正しく診るために、人は一時的に「患者」として扱われます。

一方で、回復期や慢性期医療、在宅医療、外来などでは、病気を治すだけでなく、その人がどう暮らし続けるかを見ることが重要になります。病気や障がいとともに暮らす時間が長くなるほど、その役割が暮らしの中まで広がり、その人の楽しみや関係、誰かを支える役割まで狭めてしまうことがあります。

おうち診療所神山では、医療を集会所を取り巻く一機能として日常の中に置き直すことで、たとえ病気があっても、患者としてではなく一人の人として出会い、「人を見て“病気も診る”」ための環境をつくってきました。



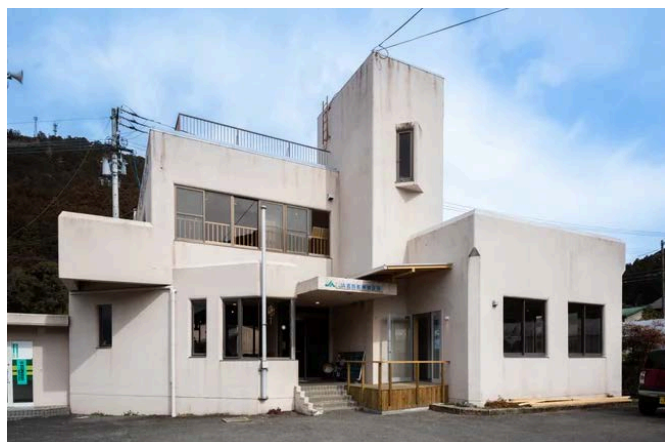
■ 「人を見て、病気も診る」ための5つのデザイン

おうち診療所神山では、病気があっても一人の人として関われるように、空間、素材、服装、人の配置、余白のつくり方までを一体的にデザインしています。



1. 誰でも来られる集会所中心の構成

建物の中心にあるのは診療所ではなく、キッチンや大きなテーブル、小上がりを備えた集会所です。診療所、図書室、ランドリー、カフェ、食堂などを同列に置くことで、医療を日常の延長に位置づけました。



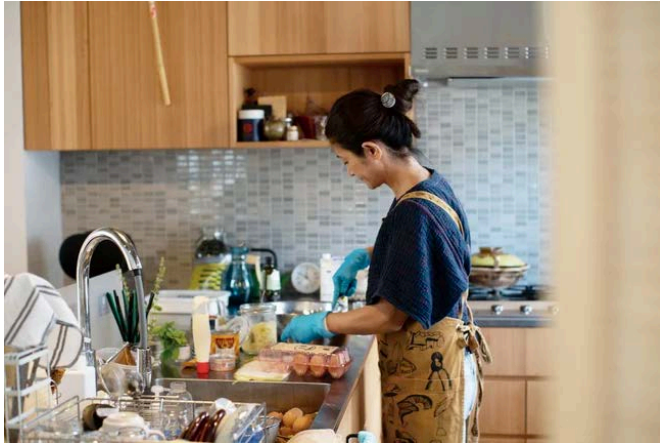
2. 暮らしをそのまま受け入れる床と外観

1階は土足で入れるコンクリート床とし、農作業帰りでも気兼ねなく立ち寄れる場にしました。外観は地域に馴染み深い元JAの佇まいをあえて残し、新しい医療施設でありながら、町の日常に自然に溶け込む場所としています。



3. 「人」として関わるための私服勤務

医師や看護師を含むスタッフは、白衣やスクラブではなく私服で勤務しています。医療者と患者という境界を外見から強めないことで、病気という属性よりも、その人自身の姿が先に見える関係を育んでいます。



4. 非医療者のハウスマスターが場を保つ

集会所には、非医療者であるハウスマスターが常駐しています。訪れる人に声をかけ、日常会話を交わし、カフェ営業なども担いながら、誰もが一人の人として心地よく過ごせる空気をつくっています。



5. 目的を限定しない余白が、暮らしの余剰を受け止める

集会所には、何をする場という定義がありません。用事があっても、なくても立ち寄ることができます。野菜や料理、技術や気づかいなど、暮らしの中から生まれる「持ち寄れるもの」が自然と集まり、病気のある人も、ケアを受けるだけでなく、誰かを気にかける側になれる場が生まれています。

■ 病気や障がいがあっても、一人の人としてあり続けられる場へ

おうち診療所神山が目指しているのは、病気や障がいがあっても、その人が自分の暮らしや関係を手放さずにいられること。医療を受ける場においても、一人の人としてあり続けられること。そのために、おうち診療所神山は、診療所のあり方そのものをデザインしました。

集会所では、患者でもある住民が訪問に出かける看護師に「いってらっしゃい」と声をかけたり、野菜や手作りのおかずを持ち寄ったりする光景が生まれています。ケアを受ける人が、誰かを気にかける側にもなる。医療者もまた、専門職である前に一人の人として地域の関係の中にいる。そうした関係性が、日常の中で少しずつ育まれています。

■ 審査委員による評価コメント

今回の受賞にあたり、審査委員からは以下の評価コメントが寄せられています。

空間から日々の営みまで丁寧に設計し、「病気を診る」に留まらず、その土地で生き続けることを支える医療を具体化した点を高く評価した。元JAの建物を生かし、診療所に食堂や図書室、ランドリー、畑などを重ねることで、医療と日常、専門職と住民の境界を緩やかにほどいている。新たな価値を生み出してきた神山の地域づくりが、暮らしを支える基盤へと深まる一つの象徴でもある。一人の医療者が地域に根を下ろす覚悟から始まったこの実践が、各地の地域医療にも重要な示唆を与えている。

■ グッドデザイン賞 公開ページ

受賞対象の詳細は、グッドデザイン賞 受賞ギャラリーにて公開されています。

ケアを地域に開く集会所・診療所 [おうち診療所神山]



[受賞公開ページを見る](#)

■ 受賞対象概要

受賞対象名	ケアを地域に開く集会所・診療所［おうち診療所神山］
受賞カテゴリ	地域の取り組み・活動
受賞企業	おうち診療所神山
事業主体名	医療法人平成博愛会
受賞内容	2026年度グッドデザイン賞／グッドデザイン・ベスト100／グッドフォーカス賞（地域社会デザイン）
プロデューサー	武久 敬洋
ディレクター	武久 敬洋・藤岡 聡子
デザイナー	島津 臣志

■ グッドデザイン賞について

グッドデザイン賞は、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する、日本を代表するデザイン評価・推奨の仕組みです。製品、建築、サービス、地域の取り組みなど、有形無形を問わず、さまざまな対象を審査対象としています。

■ おうち診療所神山について

おうち診療所神山は、徳島県神山町において、訪問診療・看護・リハビリテーションを主軸に、外来も担う地域の医療拠点です。「じぶんを生きるをみんなのものに」をミッションに、病気や障がい、老いがあっても、この地で自分らしく暮らし続けることに伴走しています。

- 事業内容：訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ・小児科
- 運営医療法人：平成博愛会
- TEL：088-676-0550
- FAX：088-676-0560

- 住所：〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字本上角100-4
- 連携機関：博愛記念病院
- サイト：<https://kamiyama.ouchi-clinic.com/>
- note：https://note.com/ouchi_kamiyama/
- Instagram：https://www.instagram.com/ouchi_kamiyama/

■ 平成医療福祉グループについて



東京や大阪、徳島をはじめ全国に100を超える病院・介護施設・福祉施設などを運営しています。「じぶんを生きるをみんなのものに」をミッションに、一人ひとりの「じぶんを生きる」を支える医療福祉の提供を行っています。

<https://hmw.gr.jp/>

■ 本件に関するお問い合わせ

平成医療福祉グループ お問い合わせ：<https://hmw.gr.jp/inquiry>

※フォームが開きますので「取材・講演・メディア掲載に関するお問い合わせ」を選択のうえ、ご連絡ください。

【報道関係者お問い合わせ先】

おうち診療所神山

担当：安藤

E-mail：kamiyama@ouchi-clinic.com

※施設撮影、院長・スタッフへの取材については診療所までお問い合わせください。

※掲載内容や画像使用に関する確認が必要な場合は、平成医療福祉グループ広報部でも確認いたします。

平成医療福祉グループ 広報部（担当：中塚）

E-mail：nakatsuka.satoshi@hmw.gr.jp